

市町村指定文化財取材票《表》

取材日	2023 年	2 月	25 日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：浄土院の木造阿弥陀如来坐像				

所在地	奈良市西大寺小坊町7-26				
所有者(取材 対応者)名	浄土院 住職 ***様 (個人情報守秘)		連絡先 0742-45-4394		
取材申込	浄土院				
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造阿弥陀如来坐像 1986(昭和61)年3月4日 指定			
	建造物 棟				
文化財指定 理由	顔や胸の部分が豊かに肉づけされ、衣文の表現も力強いなど、鎌倉時代前期の特徴をよく表す貴重なもので、市内に残るこの時期の阿弥陀如来の中では、特に保存状態のよいものである。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	2008(平成20)年に本堂の建て替えがあった。かなり堅固な漆喰造りの壁に囲まれた祭壇を備え内陣を防御するために防火シャッターが火災等を感じし閉まる仕組みになっている。消火器2台設置する。定期的に消防署の点検あり。	最新の防火対策が取られ煙探知の防火シャッターや消火器も大小2台 置かれている。また警報機や火災報知器も取り付けられ防火対策は水準が高い。
獣害対策	被害の有無、対策など 建築が新しく、壁も強固に造られているため侵入できなくなっている。	特に心配はないようである。
管理者の全 体的要望・ 提案など	特にない。	

取材を終えて感じた文化財保護状況の全体的今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

浄土院は天蓋が自然落下するような状態だったが1990(平成20)年に建て替えられ、本尊を祭る内陣を厚い壁や防火シャッターにより火災などから守っている。消火器2台や警報機も備えられ、簡素な堂内で床下の柱も揺れに強い造りで防火、耐震などの文化財保護には力を入れている。祭壇の壁厚も20cmはある漆喰造りでかなり頑強であるようだ。前庭は広い砂利敷きである。3方は町家が隣接し防犯面は周囲の目があり良い。維持管理には本山や市や消防署との連携を取り火災点検や訓練も定期的に行っている。

市町村指定文化財取材票《裏》				
取材日	2023 年	2 月	25 日	(記入者) 宮本正博
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井
取材対象先	奈良市：浄土院の木造阿弥陀如来坐像			

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像	
文化財（正面写真）	正面に仏壇、内陣を囲む3隅に防火シャッター
	
文化財指定証書・説明板	本堂正面外観の写真・軒下雄象彫刻
	
文化財の由緒・説明板の有無など	記入者の感想
<p>浄土院の境内で2008(平成20)年に奈文研が発掘調査を行い旧西大寺薬師金堂の基壇跡が発見された。浄土院は江戸時代に高塚町にあった小坊が移築されたものである。本尊の阿弥陀仏坐像は檜材の寄木造りである。修復されているがかなりの腕のある仏師の作品で的確な肉付けや丁寧なうねりのある衣文表現は素晴らしいもので13世紀前半に慶派系（快慶？）の仏師が造ったとされる。説明板は堂前にある。</p>	<p>浄土院は寄棟づくりの木造で簡素に整頓されたお堂で入り組んだ町家に囲まれた閑静な環境である。本堂の佛壇中央に阿弥陀如来坐像が鎮座している。来迎印を結ぶ如来像だが当初は釈迦如来か薬師如来として造られ補修の彫直しや漆箔も近世の後補であるとされる。江戸時代に浄土宗が幕府の手厚い庇護を受けて本山知恩院の末寺として浄土院が建てられ本尊として据えられた。賑やかな時代が静寂から偲ばれる。</p>